

I 自己評価結果に対する学校関係者評価

【管理職関係：保護者】

- ①Q 1 学校として、スクールミッション、スクールポリシーに基づいた教育活動が実施されている
- ②Q 2 生徒の学校生活は充実している

【管理職関係：生徒】

- ①Q 1 学校として、スクールミッション、スクールポリシーに基づいた教育活動が実施されている
- ②Q 2 生徒にとって学校生活は充実している
- ③Q22 生徒は先生方との関係において思いやりを感じている
- ④Q23 生徒は先生方から高い期待をかけられていると感じている
- ⑤Q24 学校の活動で生徒が活躍・貢献できる場面があると感じている

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
管理職関係	①スクールミッション、スクールポリシーについて (新規項目) 保97 生91 職100	A	スクールミッション、スクールポリシーについて、本校ホームページ上での情報公開、機会のあるごとに生徒や保護者に説明してきた結果、その内容と具体的な取組に対して、保護者(97%)、生徒(91%)、職員(100%)という高い評価を得た。今後も情報公開と細かな説明を継続していきたい。	A	A
	②学校生活の充実について 保96 生95 職97	A	ここ数年、保護者(93⇒93⇒96%)、生徒(92⇒87⇒95%)、職員(100⇒89⇒97%)と高い評価を維持している。本校が目指す「自己決定する力・学び続ける力・他者と関わる力」の育成や、本校が大切にしている「学びの土壌づくり」が広く支持されたものと捉えている。	A	A
	③生徒への思いやりについて (新規項目) 保 生94 職	A	今年度より新設された生徒対象の質問項目であるが94%という高い評価を得た。これは、教職員による対話を重視した生徒との関わりと、生徒の活躍や良いところを発見し、それを生徒指導や進路指導等に反映できている結果であると捉えている。	A	A
	④生徒への期待について (新規項目) 保 生83 職	A	今年度より新設された生徒対象の質問項目であるが83%という評価を得た。概ね我々が生徒に抱いている期待を生徒も受け止めてくれていると考える。今後も引き続き、期待を持って生徒とともに学校づくりを進めていくが、その課程で我々の期待感が生徒の重荷にならないよう注意していきたい。	A	A
	⑤生徒の活躍・貢献について (新規項目) 保 生93 職	A	今年度より新設された生徒対象の質問項目であるが93%という高い評価を得た。これは、生徒が学校生活を主体的に取り組み、生徒会活動や部活動等において、日々の活動の成果を実感できているからだと考えられる。引き続き、生徒自らが活躍・貢献できる環境作りに努めていきたい。	A	A
学校関係評価者による意見		特になし			

【総務関係：保護者】

- ①Q 3 保護者に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている
 ②Q 4 保護者に対して、学校便り、メール配信などによって、学校の情報は適切に伝えられている

【総務関係：生徒】

- ①Q 3 生徒に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている
 ②Q 4 生徒に対して、学校便り、メール配信などによって、学校の情報は適切に伝えられている

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
総務関係	①災害・非常時の対応について 保86 生95 職97	A	回答1・2の割合は昨年比、保護者88%→86%、生徒90%→95%、職員94%→97%であった。若干の変動はあるものの緊急時の対応はある程度理解を得られたと思われる。 今後は防災体験学習や西翔暦などをおして確認を怠らず、生徒の安全にかかわる行事などの充実に努めたい。	A	A
	②学校情報の伝達について 保89 生96 職97	A	回答1・2の割合は昨年比、保護者93%→88%、生徒91%→96%、職員97%→97%であった。昨年度から保護者に関しては5%下がってはいるものの、概ね理解を得られたと思われる。 PTA役員会で話題として取り上げたり、西高実況中継、HP、PTA広報誌などで学校の情報を発信していきたい。	A	A
学校関係評価者による意見		<p>・ 荒天の際など緊急時の際、早い時間帯で連絡がいただけるとその後の対応がスムーズに行えると、保護者から意見が寄せられた。</p> <p>→学校側の緊急時における情報収集の難しさを理解していただきつつ、より効果的な連絡方法を検討していくことで概ね理解を得られた。</p>			

【学習指導：保護者】

- ①Q 5 生徒の学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業が行われている
- ③Q 6 科目選択や学習の取り組み、評価規定の確認に関して、シラバス（学習の手引き）が活用されている

【学習指導：生徒】

- ①Q 5 生徒にとって、学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業が行われている
- ②Q 6 外部講師の講演や他国の人々との交流などの国際理解教育を通して、異文化理解が深まっている
- ③Q 7 科目選択や学習の取り組み、評価規定の確認に関して、シラバス(学習の手引き)が活用されている
- ④Q 8 本校の教育課程や選択科目は自分の進路に適している

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切	改善策の適切さ
学習 指導 関係	①学ぶ意欲を引き出す授業について 保92 生90 職100	A	(保護者) 86%→83%→92% (生徒) 89%→79%→90% (職員) 100%→97%→100% 極めて高い水準である。各教科担当が授業アンケートの結果や授業の振り返りの時間等を活用して、生徒の困り感をすくい取る努力をしていることが高い評価に繋がっているのではないかと。引き続き各担当者の努力をお願い申し上げる。	A	A
	②国際理解教育について 保 生79 職83	B	(生徒) (80%→76%→79%) (職員) (83%→69%→83%) 近年の本校の教育活動では地域に焦点をあてることが多く、国際理解教育はマンパワー的に厳しい状況ではあるが、国際理解講演会等がある程度生徒の評価に繋がっているのではないかと。石巻地域の外国人との交流なども探究活動に関連させられると良いのではないかと。	A	A
	③シラバスの活用について 保90 生88 職92	A	(保護者) 84%→88%→90% (生徒) 79%→81%→88% (職員) 86%→92%→92% ここ3年で最も高い水準となっている。各教科が構成を工夫し、授業や科目選択で適宜活用していただいた結果ではないかと。新課程に合わせてリニューアルが進む中でさらなる充実を図りたい。	A	A
	④教育課程・選択科目について 保 生94 職81	A	(生徒) 93%→90%→94% (職員) 97%→100%→81% 職員の水準が低いのは、新学習指導要領に合わせた教育課程の課題が顕在化してきたこと等が影響しているかと。これについてはR5年度中に変更案を検討し、既に県の承認を得たものもあるが、引き続き対応していく。	A	A
学校関係評価者による意見		特になし			

【進路指導：保護者】

- ①Q 7 生徒の進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている
 ③Q 8 「進路の手引」はお子様の進路実現のために役立っている

【進路指導：生徒】

- ①Q 9 生徒にとって、進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている
 ②Q 10 課外講習は、生徒の進路希望実現のために役立っている
 ③Q 11 「進路の手引」は、進路希望実現のために役に立っている

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切	改善策の適切さ
進路指導関係	①進路目標の明確化について 保92 生95 職97	A	春と秋に設けてある生徒面談週間は、生活指導と進路指導が主に行われている。進路指導から進路に関する成績と進路希望の資料を担当に提供することで、生活面や学習面の見直しや自分の進路に関する振り返りがしやすくなった。次年度は、秋の面談週間も5分短縮でじっくり行えることでより効果が期待できる。	A	A
	②課外講習について 保 生91 職85	B	生徒の満足度と教員の満足度でわずかだが乖離が見られる。受講者の生徒は、意識が高く講習内容についても満足度が高いのだが授業提供者は、より高い内容をしたと考えているようである。教科書+αから模試レベルへの橋渡しを想定しているところから、一部の生徒には模試で結果を残せるところまでの調整を図りたい。	A	A
	③「進路の手引き」の活用について 保91 生93 職94	A	進路の手引きについての活用度は高いと思われる。三者面談において保護者が持参する例も報告されている。特に指定校推薦の仕組みや選ばれるまでの経緯などに興味があるようである。総合選抜や一般入試の合格者数などからモチベーションをあげる例もあるようなので、今後も卒業生のデータ利用を進めていく。	A	A
学校関係評価者による意見		特になし			

【生徒指導：保護者】

- ①Q 9 生徒に対して、挨拶やマナーなどの基本的生活習慣の確立に関する指導が行われている
- ②Q10 学校として、いじめの問題に対する取組方針が保護者と共有されている
- ③Q11 学校として、部活動は活発に行われている
- ④Q12 学校として、生徒会活動は活発に行われている
- ⑤Q13 お子様にとって、有意義な学校行事がある

【生徒指導：生徒】

- ①Q12 生徒にとって、挨拶やマナーなどの基本的生活習慣の確立に関する指導が行われている
- ②Q13 学校として、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる
- ③Q14 学校として、部活動は活発に行われている
- ④Q15 学校として、生徒会活動は活発に行われている
- ⑤Q16 自分にとって、有意義な学校行事がある
- ⑥Q17 交通ルール遵守の指導が行われている

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切	改善策の適切さ
生徒指導関係	①基本的生活習慣の確立について 保92 生88 職86	B	挨拶ができる生徒が増えているが、身だしなみのだらしなみの改善がまだまだ必要である。生徒が自ら気づいて改善できるように、対話を中心とした指導を継続していく。	A	A
	②いじめ問題に対する早期発見と取り組みについて 保75 生89 職100	A	定期的なアンケートや面談だけではなく、日常の観察を職員全員が怠ることなく行っている。また、生徒情報を共有しており、気になる生徒への声かけをしていることで、生徒が安心して学校生活を送れる環境を整えている。保護者へいじめに対する情報提供を考える必要があると思われる。	A	A
	③部活動の活発化について	A	この規模の学校でこれだけ部活動を活発に行っていることは、生徒・職員の努力の賜物である。この活動を今後も継続していきたい。	A	A
	④生徒会活動の活発化について 保96 生98 職94	A	校則改正など、生徒が主体的に活動した結果が形として表れるようになってきている。今後も生徒主体の活動を促し、失敗が許容され積極的に取り組む生徒の活動を促していきたい。	A	A
	⑤学校行事について 保97 生97 職100	A	各行事においても、企画・運営等生徒が主体的に活動している。物足りなさも見受けられる場面があるものの、少しずつでも成長する支援を継続していく。	A	A
	⑥交通ルール遵守の指導について 保 生88 職89	B	生活態度の乱れが交通マナーの悪さに影響を及ぼしていると考ええる。日頃の生徒の様子から指導・支援をしていくとともに、交通マナーに関する定期的・継続的な指導を行う。	A	A
学校関係評価者による意見		特になし			

【保健厚生関係：保護者】

- ①Q14 学校として、生徒のケガや病気に適切に対応し、健康の保持増進を図っている
 ②Q15 生徒に対して、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている

【保健厚生関係：生徒】

- ①Q18 学校として、生徒のケガや病気に適切に対応し、健康の保持増進を図っている
 ②Q19 生徒にとって、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている
 ③Q20 ゴミの分別処理・ゴミ拾いなどの校舎内外の清掃や環境美化の指導に取り組んでいる

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切	改善策の適切さ
保健 厚生 関係	①健康の保持増進について 保97 生99 職100	A	・年々保健室利用者が増加し、1月中旬時点で既に昨年度の年間利用者(2,200人)を上回っている状況。心身の不調を訴え来室する生徒へ、生活習慣の見直しや、心の不調に対する対応など、できるだけ生徒が抱える健康問題の改善に努めた。 ・感染症が疑われる症状の生徒は、早めに早退させる等の対応をとり、感染拡大防止に努めた。	A	A
	②教育相談について 保93 生95 職97	A	保健室での相談も昨年度より増加している。保健室でもできるだけ丁寧に本人の訴えを傾聴しているが、深刻なケースや長期的な支援が必要と感じる生徒については、カウンセリングも実施している。今年度からSSWも配置され、外部機関との連携が必要な生徒への支援や情報共有を深めることができた。	A	A
	③環境美化について 保 生91 職86	B	環境美化委員の生徒に週末ごとに、清掃チェックをお願いし、校内美化に努めた。一部の清掃分担区では、清掃が行き届かない点を先生方から指摘を受けた。清掃の指導が難しい分担区もあるが、今後も生徒と連携し、校内の美化に尽力していきたいと考える。	A	A
学校関係評価者による意見		特になし			

【事務関係：保護者】

Q16 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている

【事務関係：生徒】

Q21 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切	改善策の適切さ
事務関係	①施設・設備の整備について 保86 生84 職94	A	教職員による毎月の安全点検や技師による定期巡回など、日頃から不具合箇所の早期発見に努め、適宜修繕を行っている。また、今年度は、教育環境の維持と安全対策のため、野球場、テニスコート等の整備を行った。 今後も生徒・教職員が共に安全安心に教育活動が送れるよう、施設設備を整備していきたい。	A	A
学校関係評価者による意見		特になし			

2 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
①いじめ問題に対する早期発見と取り組みについて	今年度も生徒の肯定的な評価は81%→89%と伸び、取り組みは受け入れられていると思われる。保護者に関しては肯定的な評価は75%と横ばい状態である。毎年、この項目は改善の方策に取り上げており、次年度も緊張感を持ちながら、生活アンケート、面談等の内容・頻度などを工夫改善していきたい。また、保護者へいじめに対する情報提供を考える必要があると思われる。
②生徒会活動の活発化について	生徒の肯定的な評価が77%→98%、保護者の肯定的な評価が89%→96%と伸びている。今年度は校則の改正に生徒会が積極的に活動し、実現できたことが肯定的な評価につながったと思われる。今後はこの流れが現生徒会にも引き継がれ、生徒会及び在校生徒が積極的に意見を出し合い、伸び伸びと活動ができる環境づくりに努めていきたい。
③災害・非常時の対応について	生徒、保護者の肯定的な評価がそれぞれ生徒90%→95%、保護者88%→86%であった。概ね緊急時の対応はある程度理解を得られたと思われる。 しかし、生徒の命に関わる事案なので、今後も防災体験学習や西翔暦などをおして確認を怠らず、生徒の安全にかかわる行事などの充実に努めるとともに保護者に対しての情報発信も行っていきたい。